



## 仁術、算術、バランスある 行政書士をめざして

茨城県行政書士会 会長

國 井 豊

ゴールデンウィークも過ぎ去り、いよいよ名実ともに新年度入りとなります。

会員の皆様のご理解ご協力により、これまで、円滑な会運営、効果的な業務執行をすることができました。この場をお借りし、厚くお礼申し上げます。残された任期も、あとわずかとなりましたが、全速力で走り抜け、制度の理念はもとより、本会の魂を、しっかりと次期執行部に、引き継いでまいりたいと思いません。最後まで、ご指導ご支援賜りますよう、よろしく願いいたします。

24年度の行政書士試験は、資格の持つ優位性からか、それとも特段の行政書士人気によるものなのか、75,817名という多くの申込者のもと、合格者5,508名の行政書士資格者が、誕生する結果となりました。合格率9.19%、本県のそれは7.29%と、単純に定義できませんが、一般的には難易度の高い試験、そして申込者数から、高人気の資格と評価されているようです。一方、受験率は約79%と、何らかの理由により15,869名の方々が、未受験となりました。毎年同様の傾向で、その数には驚かされます。是非はともかく、受験した方の中にも、記念受験や腕試しが一部含まれることを考慮すれば、身轟負かもしれないが、難関資格行政書士は、受験生はもとより、これから志す皆さんの憧れの存在であり、羨望的のいっても過言ではありません。裏返せば、私たち現役には、大きな責任と重要な役割があることを、意味しているのです。

ところで、今年の合格発表は、1月28日でした。その合格証には、総務大臣と都道府県知事の名前が、併記されていますが、他の資格試験では皆無です。かつて、都道府県レベルか

ら全国統一の資格への飛躍をめざし、先輩方がその英知を結集し、結実させました。その過程における名残りの一つともいえる二名併記の合格証。心血を注ぐ先人の姿を、垣間みるような気がしてなりません。何事も歴史の検証によって、あるべき姿や将来ビジョンが、明確になります。これからも、その名に恥じない会運営を切望してやみません。

わが会の月一ミニ式典ともいえる新入会員登録証交付式。合格発表以降、真新しい金ピカな合格証を携えた、新会員の皆さんを迎えることができました。合格からわずか数か月、緊張感の漂う中、年齢ではない、初々しさを感じさせます。不断の努力や長年の実務経験によって、晴れて行政書士の仲間に入り、喜びや期待、そして不安も束の間、実務能力の担保とともに、経営という大きな壁を乗り越えなければなりません。そのためには、当然にしてコンプライアンスが求められます。最近、行政書士法を精読しない行政書士への警鐘を耳にします。せっかく難関を潜り抜け、洋々たる前途を抱いても、存在意義や理念を理解しなければ、極言すれば、それは砂上の楼閣にすぎません。また、きわめて残念なことに、会員への苦情や処分急増により、県から異例の改善指導がありました。誠に遺憾であり、この危機的ともいえる状況を打破するため、全会員が、コンプライアンスの重要性について共通認識を持ち、徹底させなければなりません。

真の憧れ、仁術と算術のバランスある理想的な行政書士、そのためにしっかりと機能する行政書士会。めざしましょう、みんなで力をあわせて！